

# (国) 福島大学

人間発達文化学類

人文科学コース

キャリア教養学科 (橘高校出身)

(※2022年度入学者から新カリキュラムとなります)

Q. 編入を考えたのは、いつからでしたか？また、その理由を教えてください。

時期：桜の聖母短期大学に入学する以前からです。

理由：教職に就きたいと考えていたためです。

Q. 編入までのプロセスを具体的に教えてください。ガイダンスはいつ、どのような内容ですか。

1年生の後期に「キャリアデザインⅡ」の授業があります。編入制度の説明や大学研究について、小論文や志願理由書の書き方、小論文を書くにあたっての必要な幅広い知識や時事問題に関する講義を受けます。(論文作成が課題として出されます)

2年生の前期には「キャリアデザインⅢ」の授業があります。主に小論文指導と1年生同様の講義を受けます。また面接練習や志願理由書の添削なども授業内で行っていただきました。

Q. 実際の学習指導は、いつから、誰にどのような形で指導されましたか。

英語は1年生の前期からです。編入対策を視野に入れた英語の授業では、単語テストが設けられており、単語暗記に力を入れることができました。また、大学入試向けの英文読解の内容も多く、慣れない形式の英文に触れる機会を持ってました。

小論文は1年生の後期から、面接は2年生から、いずれもキャリアデザイン担当の先生方からご指導いただきました。基本的に自分で学習を進めましたが、常に講義に集中し、理解が十分でない場合には講義終了後に質問するなど「常日頃から講義を大切に」するよう心がけていました。

Q. 編入対策で努力したことは何ですか。具体的にどのような勉強をいつからしましたか。

「講義を大切にすること」です。英語は、単語・読解ともに1年生から始めました。単語は2週間おきに100単語×1セット覚えめました。読解は、講義で扱った大学入試過去問とキャリア支援センターにある長文読解の練習用テキストで勉強しました。

小論文と面接は、1年生後期からのキャリアデザインで力をつけました。小論文については「自分の分野の過去問を早めに解くこと」を、面接については、先生方にご指導をいただいた中での自分の課題の洗い出し・改善を行うようにしていました。

Q. 聖母の学びで力になったことはどんなことですか。

講義すべて。一見関係のなさそうに思える学びでも、視点を変えれば自分に活かせる学びに変化します。その点では、聖母での学びは、編入対策の小論文・英語・面接のすべてに活かせるものであったと感じます。中でも、自身の志望する分野に近い学びは、講義後に自分なりに学びを咀嚼して解釈すると理解が深まりました。

Q. 先生のアドバイスで役に立ったことはどんなことですか。

「先生を有効活用する」1年生の夏休み明けの編入対策講座で言われた言葉だったと記憶しています。当時、編入試験を受ける自覚と覚悟が不足していた私にとって、強く心に響きました。何をすべきかわからない時や自分が取り組むべき課題・問題点などに悩んだ時、先生方からのアドバイスは非常に有効です。編入対策の優先度や学習の進捗状況を知るためにも、ぜひ先生方にアドバイスしていただくことをお勧めします。

Q. ①大学（短大）受験の時の気持ち・②短大入学時（学生生活）の気持ち・③編入試験前の気持ち・④合格した時の気持ちを教えてください。

①文系科目が得意分野であったため、緊張することなく受験しました。

②先生方のサポートが手厚く、講義の質も非常に良いものだと思います。

「自分の目指すものは何か」「そのために必要なものは何か」を見直すことができ、「どこで何を学ぶか」よりも「自分がどのように学ぶか」で、結果が変わることを痛感しました。

③現役と浪人時に2度の「不合格」を経験していたため、不安と緊張で涙が止まりませんでした。自分のこれまでの学習状況を振り返り、後悔ばかりが残りました。本番では、できる限りの力を尽くすことに集中していました。面接で失敗してしまったため、生きた心地がしませんでした。前日に一睡もできなかったため、疲労感が押し寄せました。

Q. これから聖母短大に入学する、または聖母短大から編入を目指す後輩に伝えたいことは何ですか。

①大学研究を怠らないことです。「〇〇ができる大学」「〇〇を実施している大学」で検索してヒットしても、最新の情報がどうか、編入後もできる活動かどうかは別です。志望大学に連絡を取るなど、万全の状態にすることが大切だと感じました。

②短期大学での学びを大切にすることです。（小論文のネタや英語読解の例を得られる）

③自分が学びにどのように向き合うかで結果は変わるということです。先生方やキャリア支援センターから得られる支援がとても充実しているため、自分なりに有効活用することをお勧めします。